

目次

はしがき

ブローグ 日本法史への扉——法史学の存在意義と史料の諸形態…………… 1

I——法史学の存在意義 1 / II——法史料の諸形態 5

総論 法の移り変わり——古代法から近代法へ…………… 9

第一部 法と紛争処理の形態

A 「法」の存在形態

第1講 日本古代法の特質と律令受容の位相…………… 16

1 《秩序の法》の淵源 17 / 2 「利」の追求として発現する《権利の法》 19 / 3 日

本律令裁判の特質——継受の具体的様相—— 24 / 4 おわりに——検非違使の裁判—— 31

第2講 律令の解釈と明法家……………34

- 1 律令法曹の養成と明法家……………34／2 明法家の法解釈……………38／3 律令解釈の現実……………42

第3講 中世における法の世界……………49

- 1 中世社会の特色……………49／2 御成敗式目と道理……………54／3 中世法の世界……………57／4 法源の保存……………58／5 訴訟当事者の証明責任——謀実をめぐる争い——……………60

第4講 江戸幕府法と藩法……………69

- 1 慶安御触書から考える江戸幕府法……………69／2 幕府法と藩法……………71／3 幕府法と藩法の関係と変化……………76

第5講 公事師・公事宿から弁護士へ……………81

- 1 公事師と公事宿……………81／2 代言人から弁護士へ……………87

第6講 西欧型民刑法典の編纂……………92

- 1 近代日本における法典編纂……………92／2 刑法典の編纂……………92／3 民法典の編纂……………94

B 「法」と裁判

第7講 中世における訴陳三番……………104

- 1 「獄前の死人、訴えなくんば検断なし」……………105／2 訴訟手続の概観……………106／3 召文に對……………104

する違背とは 111 / 4 訴陳状の行方 115 / 5 裁許状の作成手続 116

第8講 中世における和与 122

1 鎌倉幕府法における和与 123 / 2 訴訟手続における和与の定義 125 / 3 和与状と和与認可裁許状 126 / 4 和与認可の申請手続と私和与 130

第9講 村落間紛争と解決手続 136

1 室町期の村落と法 136 / 2 室町期の村落間相論 137 / 3 戦国期の村落間相論 142

第10講 国人一揆の法と裁判 146

1 国人一揆と契状 146 / 2 国人一揆契状にみる特徴 148 / 3 国人一揆の紛争解決の
実態 152 / 4 戦国期に向けて 156

第11講 江戸幕府の法と裁判 160

1 二つの裁判類型——出入と吟味—— 160 / 2 出入筋の類型と特徴 162 / 3 吟味筋の
特徴と拷問 167

第二部 民刑事法の諸相

A 刑事法—犯罪と刑罰

第12講 近代に生きつづける律令……………176

- 1 呪咀による殺人……………176／2 暴行・傷害の罪……………181

第13講 「密通」をめぐる法とその周辺……………176

- 1 近代法における姦通の取扱い……………187／2 江戸時代以前における密懷をめぐる罪……………191／
3 江戸時代における密通をめぐる罪……………194

第14講 喧嘩両成敗と戦国大名法……………199

- 1 喧嘩両成敗法とは……………199／2 喧嘩両成敗法のルーツと要素……………201／3 戦国期の喧嘩規
制……………203／4 喧嘩両成敗法の完成とその後……………205

第15講 御定書にみる犯罪と刑罰……………212

- 1 御定書の成立と特徴……………212／2 「盗み」をめぐる法と刑罰……………214／3 「人殺」をめぐる
法と刑罰……………217／4 責任能力をめぐる法と刑罰……………221

第16講 人足寄場と近代自由刑……………225

B 民法①—物権と裁判

1 人足寄場成立の背景 代への接続	236	226 / 2 寄場人足の処遇	230 / 3 寄場の展開	233 / 4 近
----------------------	-----	-----------------	---------------	-----------

第17講 律令制下の土地所有観念とその変容

1 はじめに	239	2 / 「公地公民」と墾田永年私財法	239
奈良・平安時代初期の田地・家地売買の実態——官司の関与と保証人の設定——	246	2 / 「公地公民」は実在したのか——公田・私田の観念から——	240 / 3

第18講 「永仁徳政令」とは何だったのか

1 「永仁徳政令」とは？	252	2 / 「永仁徳政令」の内容	253	3 / 「永仁徳政令」を受 容した社会	257
--------------	-----	----------------	-----	------------------------	-----

第19講 中世における売券

1 中世における売券 のあり方	272	2 / 売券にみられる代表的な文言	266	3 / もう一つの売買	264
--------------------	-----	-------------------	-----	-------------	-----

第20講 相対済令と内済

1 はじめに	275	2 / 相対済令とはなにか	276	3 / 相対済令導入の理由	280	4
出入筋の手續と内済	282	5 / 特殊な内済	284	6 / 内済に対する評価	287	

第21講 田畑永代売買の禁止から解禁へ……………289

- 1 近世の田畑所持 289／2 田畑永代売買の禁止 290／3 山城国乙訓郡長岡の田畑売買証文 293／4 明治期の土地所有と担保 297

C 民法法②—家族

第22講 古代日本の相続法と氏・家の観念……………301

- 1 はじめに 301／2 戸令応分条からみる財産相続の特質 302／3 古文書からみる財産相続の実態 307

第23講 中世武家法における女性の再婚と相続……………314

- 1 中世における婚姻・相続のあり方 314／2 再婚一般に関する『御成敗式目』の規定 315／3 改嫁の現実 318／4 再婚の現実 324

第24講 わが国の伝統的家族法制とは……………326

- 1 穂積陳重と八束 326／2 二つの論争 329／3 「民法出テ、忠孝」ニフ 330

参考文献・史料出典一覧

あとがき——ふたたび「日本法史」とは何か——

コラム目次

1	古代 「法源」「史料」とその活用	46
2	中世前期① 和与の内容を知るためには	134
3	中世前期② イイクニつくらない鎌倉幕府？	173
4	中世後期 史料と現実のコラボレーションのススメ——『政基公旅引付』の世界——	210
5	近世 東海地方の法をめぐる史跡	237
6	近代 法務史料展示室	338